

マルチメディアDAISY図書を使った 公共図書館の障害者サービスについて

新宿区立戸山図書館
福田 梓

はじめに

新宿区立戸山図書館は、新宿区立図書館の中でも障害者サービスの拠点館としてさまざまな活動をしています。主としてDAISY図書の製作・貸出、対面朗読サービス、家庭配本、点字図書や大活字図書の収集など多岐にわたります。

2018年度は、日本全国各地の図書館や自治体から、見学や意見交換会などの依頼がありました。海外からの見学もあり、インドのドクター、シンガポールの図書館庁のご一行が来館されました。こうした機会を通し、それぞれの図書館事情を知ることができました。

「障害者サービス」という枠にとらわれず、自分自身でできることを見つけていくことが重要だと感じます。私自身は障害者サービスの他に、広報やイベント、企画展示、児童サービスとかかわっており、それらと障害者へのサービスをどう関連できるかを意識しました。

企画展示

「もっと楽しもう！ 障害者スポーツ」

新宿区では、東京2020に備え、オリ

ンピック・パラリンピックに関連した事業や展示を行っています。毎年12月3日～9日は障害者週間ということもあり、11月12月の展示は「もっと楽しもう！ 障害者スポーツ」をテーマに、パラリンピックや障害者スポーツに関連した展示を行いました。あわせて、戸山図書館の障害者サービスを紹介し、地域の皆様へのアピールや周知につながるよう計りました。

展示付近に当館所蔵のマルチメディアDAISY図書が閲覧できるiPadを設置し、気軽に見て触って、体験できるようにしました。

ある利用者から、展示してあるマルチメディアDAISY図書に対し、「自宅でどのように閲覧すれば良いのか」といった質問を受けました。具体的に話をしてみると、その方のお子様に学習障害の可能性があるということをおっしゃいました。マルチメディアDAISY図書の存在を知らなかったようで、資料をお渡しし、使い方の説明をしました。

そのあとも、お子様を連れて何度か来館され、いっしょにマルチメディア

DAISY図書やわいわい文庫Ver.BLUE版を体験しました。機器の扱いやダウンロードの仕方がわからなかったようで、相談にも応じました。お子様はパソコン画面に写したわいわい文庫Ver.BLUE版を食い入るように見ていました。

後日、マルチメディアDAISY図書を借り、自宅でも楽しむことができたとおっしゃいました。次から次へと本を読んでしまい大変だ、という嬉しい知らせを聞くことができました。



マルチメディアDAISYおはなし会

恒例となっているマルチメディアDAISYおはなし会では、今回もわいわい文庫Ver.BLUE版を使用しました。まずは手遊び、次にわいわい文庫Ver.BLUE版から『てんてん！』を使用しました。そのあとは点字つき絵本『しろくまちゃんのほっとけーき』を読み聞かせしました。そのあと参加者にiPadを渡し、体験してもらいました。参加者の年齢が低かったため、急ぎょ点字絵本を入れてみて、飽きさせないように工夫しました。

他にも定期的に障害児向けおはなし会や病院おはなし会を行っています。対象が違えばアプローチも変わってくるので、プログラムを少し変えています。障害児向けおはなし会では、抽象的な表現は使わない、ビックブックや紙芝居など、絵が大きいものを使用する、手遊びや動きのあるもの、手話を取り入れる、などです。病院おはなし



会では当日の体調もあり、どんな子が来てくれるかわかりません。当日来てくれた子に応じて、読む本も変わります。このように臨機応変に対応するよう心がけています。



早稲田大学との連携

毎年、早稲田大学の教育学部と連携し、生涯学習について理解を深める事業を展開しています。今年は新館の下落合図書館を会場とし、主に介護サービスや子育て支援などの取り組みについて学び、戸山図書館の障害者サービスについても紹介しました。

会場にはDAISY図書やマルチメディアDAISY図書を展示し、体験してもら

いました。毎年ながら、学生からはこういった電子図書があることや、学習障害に対し、「知らないことばかりだった」と感想をいただきました。



今後の取り組み

企画展示がきっかけで、マルチメディアDAISY図書を知り、情報を届けられたことがなによりうれしく、成果となりました。今後の目標としては、マルチメディアDAISYおはなし会を新宿区の他の図書館でもできるようにすることです。年明けに研修を行い、情報を共有しました。こうした取り組みを通じて、当事者に情報を届けられるようにしたいです。